

カメラレポート

CAMERA REPORT

このコーナーでは、地域や学校で行われるイベント行事などを紹介します。皆さんの身近で行われている楽しい催しなどありましたら、企画課広報統計係（52 2115）までお知らせください。



鍛錬で培った技を披露

（11月23日）

幾寅の空手道場「正伝空手道南風塾」（田口桂治塾長）が今年で設立30周年を迎えたことを記念して、設立30周年記念昇段級審査会がみなくるで行われました。審査会には、小学校1年生から一般人までの22名の塾生が出席し、基本の型やミット演武、約束組み手、組み手試合が行われ、師範や来賓の方々、応援に訪れた家族が見守る張り詰めた雰囲気の中、終始真剣な表情でこれまでの鍛錬で培った数々の技を披露していました。最後には、塾生の皆さんが気合を入れて、拳や蹴りで板などを割る試割りも行われ、会場から大きな拍手が送られました。



白熱した試合を展開(12月6日・7日)

町教育委員会などが主催する第3回町民カーリング大会が、空知川スポーツリンクスで行われ、小学生チームやママさんチーム、シニアチームまで幅広い年齢層の9チームが出場し、優勝を目指して白熱した試合が繰り広げられました。競技の結果、チーム目黒（落合）が優勝するなど、落合のチームが上位独占となりました。

一味園開園30周年を祝う(12月1日)

特別養護老人ホーム一味園が、昭和53年12月1日に開園して以来30周年を迎えたことを記念して、開園記念日祝典が行われました。祝典には、入所者をはじめデイスーパーの利用者や地域の皆さんが出席し、入所者を代表して佐藤秀男さんが「職員や入所者の皆さんと仲良く楽しく生活できていることに感謝しています」とあいさつが述べられました。続いて行われた余興では、職員の皆さんによる歌や踊り、曲芸などが披露され、入所者の皆さんは笑顔で多彩な催しを楽しんでいました。



地域の皆さんともちつき(12月5日)

下金山小学校では、児童の皆さんが育てたもち米を利用して、もちつき集会を開きました。集会には、地域の皆さんも一緒に参加して行われ、児童が1人ずつ順番にもちをついたあと、つきあがったもちは、児童が考えた「ピザもち」や、あんこもち、お雑煮などにして味わいました。自分たちで育てたもち米の味は格別だったようで、児童の皆さんは、口を大きくあけてたくさん食べていました。もちつきのあとは、ゲーム大会も行われ、地域の皆さんと交流を深めていました。



しか肉を利用したソーセージづくりに挑戦(12月6日)

幾寅小学校のPTA研修事業として、「しか肉ソーセージづくり」が、高齢者研修センターで行われました。この事業は、町商工会の協力により、しか肉の消費拡大PRを目的にしか肉のミンチを提供して行われたもので、児童とその父母や先生方など34名が参加しました。



参加した皆さんは、講師を務めた町商工会川村勝彦副会長から指導を受けながら、3班に分かれて、しか肉や玉ねぎなどの材料をボールに入れて手で混ぜ合わせたあと、羊腸への肉詰め作業を行い、スモーク器で乾燥させたあと、茹でて出来上がりとなりました。肉詰め作業は、子どもたちも興味深く、真剣な表情で作業をしていました。作業を終えた子どもたちは、「早く食べたい。」と話するなど、出来上がりを楽しみにしている様子でした。

ソーセージを茹でている間には、北海道農政事務所の職員から、食事バランスガイドを利用した食生活についての講義も行われ、父母の皆さんは、食生活の大切さを改めて認識していました。

出来上がったソーセージは、各自持ち帰り自宅で食べました。果たしてお味の方はいかがだったでしょうか。

ひと足早いクリスマスパーティーを楽しむ(12月7日)

町商工会青年部(安西英紀部長)の主催によるクリスマスパーティーがみなくるで行われました。会場には、家族連れや職場の仲間同士など多くの皆さんが来場し、地元の若者などで編成された「ジョニーハンズ」、第2回ライブダムに優勝した「笑科書」、札幌市の「キャバークラブ」の3組による演奏を聞きながら、ひと足早いクリスマスパーティーを楽しんでいました。



今年(うし)は丑年

今年(うし)は丑年。牛は、十二支の二番目、偶蹄目反芻類ウシ科の動物です。胃が四つあって反芻(はんそう)1(す)することはよく知られています。家畜としての牛には役牛、肉牛、乳牛などがいます。日本でも戦前は農耕や運搬などに盛んに役牛が活躍していました。最近では、そうした風景はあまり見かけなくなりました。家畜以外の牛には野牛、水牛などがいます。牛が家畜として飼われたのは、新石器時代あたりが起源といわれています。日本でも縄文時代に牛が飼われていたという説があります。牛車は平安貴族の乗り物で、今もひな祭りのひな壇に飾られています。私たちが牛と聞いてイメージするのは、牧場の風景によく似合う白と黒の乳牛ホルスタインではないでしょうか。また、年賀状などの干支のイラストに登場するのは茶色の牛が多いようです。人との付き合いが長い牛は、ことわざにもよく登場します。よく知られているのは、「食事してすぐ寝ると牛になる」ではないでしょうか。昔は行儀の悪い子をしかるときに親がこの言葉をよく使ったものです。



でも、最近では、食後に慌てて動くよりも、少しやすんだほうが消化にもよいといわれ、この言葉はあまり聞かれなくなりました。牛はよく馬と比較されます。「馬に交じりたる牛」は、能力の劣ったものがまじっているということ。「馬に乗らねば牛に乗れ」は、次善の策というような意味で使われます。どうやらことわざの上では、牛は馬にひけを取っています。「牛歩戦術」は、牛ののろいことからきたものの。「牛のよだれ」は、だらだらしていることと思われ、さすが、「商いは牛のよだれ」という言葉もあり、細く長く辛抱するのがよいということのようです。「男と牛の子は急ぐものではない」も、牛のようにゆったりと構えよということ。和牛人気により、最近各地では肉牛の飼育が盛んに行われており、地域おこしにひと役買っています。昨年は食品の偽装問題が起きましたが、今年もおいしい牛肉を食べられるといいですね。今年の丑年は、モウ烈に頑張るもよし、のんびりと反芻(はんそう)2(す)しながら過ごすのもよし、角は突き合わせずに、仲良くいききたいものです。

1 反芻：一度の飲み下した食物を口の中に戻し、噛みなおして再び飲み込むこと。 2 反芻：繰り返して考えること。